

第3章 都市の将来像

福岡市のめざす姿

カーボンニュートラルを実装した都市をめざして

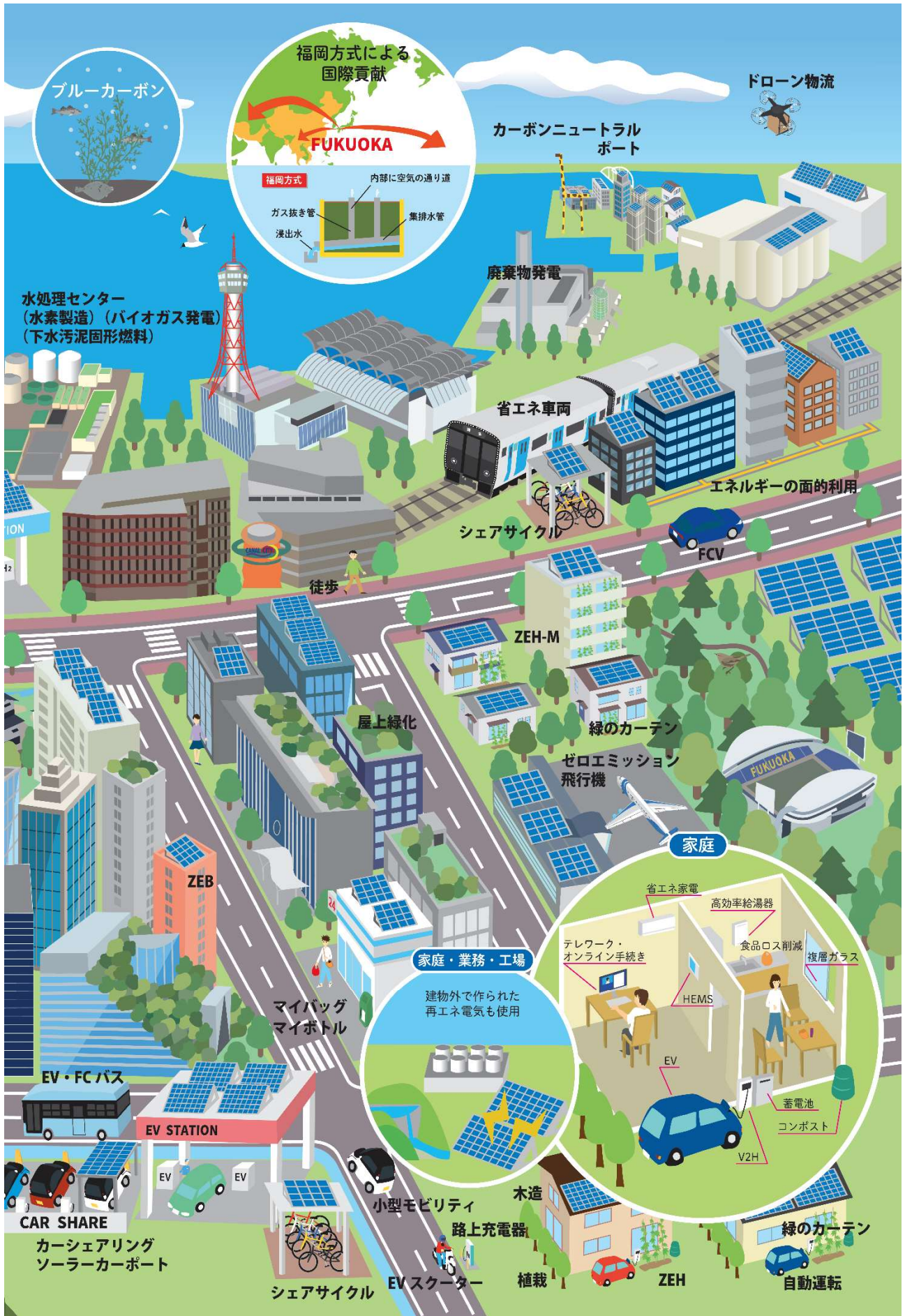
★脱炭素に向けた価値を世界と共有し、都市（まち）が一体となって積極的なチャレンジを行っている。

△★生活やビジネスなど都市活動全般にわたり脱炭素に対応した環境が整備され、温室効果ガスを増やすことがない。

★商品やサービスを購入するとき、みんながその製造、流通、破棄など全ての過程での環境への影響を考慮して選んでいる。

ゼロエミッション船





【チャレンジ目標】

2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ

「市域での温室効果ガス排出量」を「市外への貢献による削減量」と「吸収量」を合わせた量が上回っている状態をいいます。

$$\text{市域の排出量} \leq \text{市外への削減貢献量、吸収量}$$

市域での排出削減を進めるとともに、市外への貢献による削減の拡大、森林などによる吸収を組み合わせることで実質的な排出量ゼロをめざします。

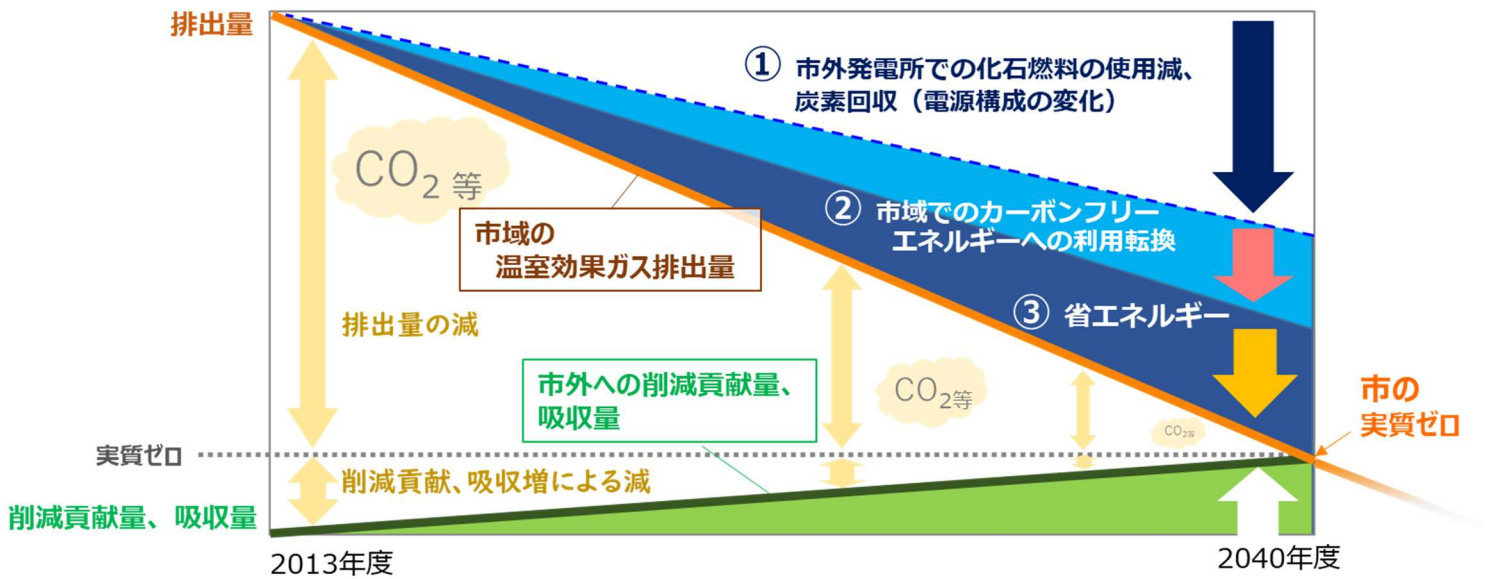


図 31 目標達成に向けたイメージ図

市域の温室効果ガス排出量の削減方策

- ① 市外発電所での化石燃料の使用減、炭素回収による電源構成の変化
- ② 市域でのカーボンフリーエネルギーへの利用転換
(市域での再生可能エネルギー由来電力の積極的な使用や電化、水素利用など)
- ③ 省エネルギーの推進
(エネルギーの効率化や無駄なエネルギー消費の削減)

市外への温室効果ガス削減貢献量の拡大と吸収量確保の方策

都市としての特性、これまで培った環境技術、都市間連携を踏まえた取組みの推進。

- i) 市民・事業者による環境にやさしい消費（エシカル消費）
- ii) 国際貢献
- iii) 再生可能エネルギーの市外への売電
- iv) 森づくりなどによる吸収 など

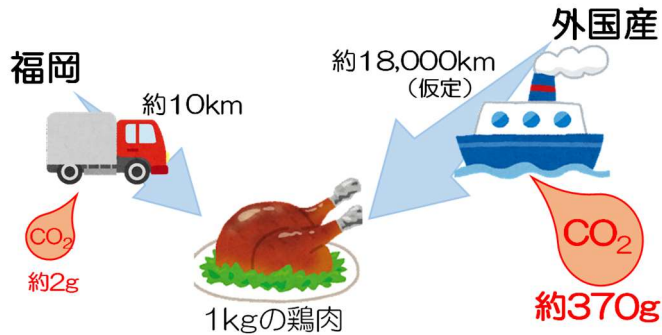
～コラム～ エシカル消費がなぜ脱炭素につながるの？

エシカル消費とは、環境・人・社会・地域等に配慮した消費行動のことです。
 製品やサービスを選ぶときに、値段や便利さだけでなく、誰がどこで商品を作り店舗までどのように運ばれてきたのか、自分が手に取るまでの過程を考えながら選ぶことが、エシカル消費の第一歩です。例えば…

❖ 地産地消

地域で生産された農林水産物をその地域で消費しようとする取組みです。

外国産のものは、飛行機や船での輸送に伴い多くの二酸化炭素を出してしましますが、地元産を選ぶと、二酸化炭素の削減だけでなく、新鮮な食材が手に入り、地元生産者の応援にもなることから、地域経済の活性化にもつながります。



▲ 鶏肉 1kg を輸送する際に排出する二酸化炭素の量

出典) 農林水産省のフードマイレージの考え方から福岡市で算出

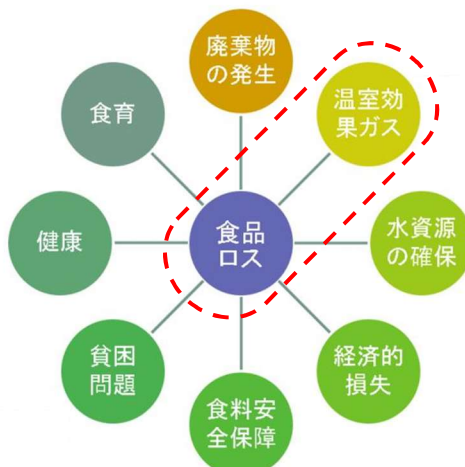
❖ 食品ロス

食品を作ったり運んだりする時に二酸化炭素が排出されるため、食品を無駄にしないことも二酸化炭素の削減になります。

そのため、店舗で買い物するときは、食べきれぬ量だけ買う、すぐに食べる場合は、賞味・消費期限の近いものから買うことが大事です。

食品ロスによる1世帯の年間の損失額は数万円とも言われています。

食品ロスをしないことは、環境だけでなく、お財布にもやさしい取組みです。



出典) 環境省 食品ロスを減らすために私たちにできること